

4年2組 社会科学習指導案

授業日 平成23年10月14日（金）4校時
指導者 教諭 大矢 和憲
会場 4年2組教室

1 単元名 安全で安心なまちづくり～事故や事件を防ぐ～

2 本単元における目指す姿と大切にしたい思考の方法

(1) 単元のねらい

本単元は、学習指導要領3学年及び4学年の内容(4)に準拠して設定したものである。

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

(内容の取扱い)

(4) 内容の(4)の「災害」については、火災、風水害、地震などの中から選択して取り上げ、「事故の防止」については、交通事故などの事故防止や防犯を取り上げるものとする。

(5) 内容の(3)及び(4)にかかわって、地域の社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うものとする。

そのうち、「事故の防止」についての学習が本単元である。

本単元の目標は次のとおりである。

事故の防止や防犯の取組について調べることを通して、警察署や関係の諸機関、地域の人々が、互いに協力したり共に助け合ったりして、地域の安全を守る工夫や努力をしていることがわかり、自分も地域社会の一員として、自分の安全は自分で守ることの大切さを自覚できるようにする。

本単元では、交通事故や犯罪から人々の安全を守るために、警察署が中心となって、市役所や企業、店舗、地域の自治会やボランティア団体などの市民が協力、連携して交通安全運動や防犯活動をしていることや、地域では事故防止や防犯のための様々な工夫がされていること、事故や犯罪の発生時には、警察署が中心となり、関係機関と連携して事故や事件の処理・捜査に当たっていることなどを学習する。

その中で、特に、警察署だけでなく、日頃から様々な人たちが交通事故の防止と防犯のための活動を行い、協力したり共に助け合ったりして地域の安全を守っていることを重点的に採り上げる。なぜなら、多くの人々が安全で安心なまちになることを願い、そのために努力や協力をし合っていることを自分の生活と関連付けてとらえることが、本単元における地域の一員としての自覚をもつことにつながるからである。

新潟市では、平成19年に「犯罪のない安心・安全なまちづくり条例」を制定し、警察署による犯罪の取り締まりに加えて、「地域ぐるみ・市民ぐるみ」で、日頃から交通事故防止や防犯の活動を行っている。このような活動は、市民一人一人が事故防止や防犯の意識を高め、事故や犯罪に遭わないようにすることを目的に行われているのである。つまり、誰かが守ってくれるのではなく、自分の安全は自分で守るという意識をもつことが大切なのである。

そこで、本単元では、まず、警察署が地域の安全を守っていること（公助）や、地域の人たちが地域の安全を守るために協力していること（共助）を自分の生活と関連付けてとらえさせる。その上で、それでも交通事故や事件が起きている原因を考えることを通して、自分の安全は自分で守ること（自助）の大切さに気付かせ、自分事として安全で安心なまちづくりについて考えられるようにする。

多くの子どもは、地域の安全を守っているのは、警察署であるととらえている。そのような子どもに、警察署だけでなく、地域の人たちを始め、ボランティア団体や企業、店舗、市役所など、様々な人たちが協力して、市全体で安全で安心なまちづくりをしていることをとらえさせたい。そして、それらの活動を行っている人たちの願いや、活動の目的を知ることを通して、自分の安全は自分で守るという地域の一員としての自覚をもてるようにする。

そのために、9月下旬の「全国秋の交通安全運動」の実施に合わせて学習を設定し、自分

の身近な生活場面での気づきを大切にすることで、多くの人々が安全で安心なまちになることを願い、そのために努力や協力をし合っていることを、自分の生活と関連付けてとらえられるようにする。

(2) 本単元で目指す姿及び思考の方法

本単元では、**交通事故や事件から安全を守ることを、自分の生活と関連付けてとらえる子ども**を目指す。なぜなら、本単元の学習では、誰かが自分たちの安全を守ってくれているから安心だというとはえず、自分たちの安全は自分たちで守ることが大切だという自助の意識をもつことが、地域の一員としての自覚であると考えられるからである。

そこで、地域の安全を守る活動をしている人々に目を向け、警察署の働き（公助）や地域の人たちが協力して活動をしている（共助）目的や願いを、自分の生活と関連付けて追求させる。その上で、公助や共助だけでは、事故や事件から安全を守りきれないという事実を提示し、自助の大切さに気付かせていく。

このときに大切にしたい思考の方法は、**推量する思考の方法**と**関係付ける思考の方法**である。なぜなら、推量する思考の方法を使って、自分の生活経験や実態と交通事故や事件の事実とをもち出して交通事故や事件が起こる原因について考えることや、関係付ける思考の方法を使って、自分たちが考えた交通事故や事件の原因と、地域の人たちが安全を守りきることができない事実とを結び付けて考えることで、子どもは、自分の安全は自分で守ることが大切であることに気づき、交通事故や事件から安全を守ることを、自分の生活と関連付けてとらえることができるからである。

また、学習を進めるにあたって、特に必要となる学級力は、「創造的対話力」の「話をつなげる」、「新たな考えをつくる」である。気付いたことを発表する場面や、考えを交流させる場面で、友達の考えに付け足したり、友達の考えとの相違点を挙げて話したりと、「話すスキル」、「聞くスキル」を発揮している姿を賞賛していく。

3 指導の構想

子どもは、これまでの学習で、警察署が市民の生命・身体・財産を守るためにたくさんの仕事をしていることや、地域の人たちが自分たちの地域の安全と安心を守るため、自主的に様々な事故防止や防犯の活動をしていることを調べてきている。その中で、特に、地域の人たちが、地域の人々が事件や事故に遭ってほしくないという願いをもって活動していることを知っている。そのため、子どもは、警察署や地域の人たちが普段から自分たちの地域の安全を守ってくれているから安心だととらえている。

働き掛け 1

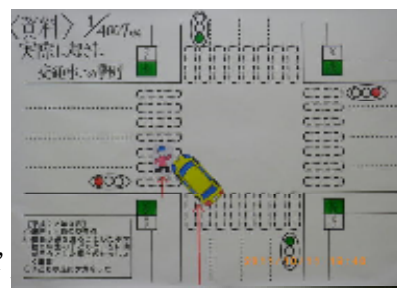
昨年新潟市内で起きた交通事故と事件の件数を提示し、疑問を焦点化して、学習問題を設定させる。

子どもに、単元の導入で示した、昨年新潟市内で起きた交通事故と事件の件数を提示し、疑問に思うことを問う。警察署と地域の人たちの活動や願いについて調べ、警察や地域の人たちが自分や地域の人々の安全と安心を守ってくれているととらえている子どもは、それでも、新潟市内だけで交通事故が4007件、事件が5085件起こったことに疑問を感じる。そこで、どのようなことを学習問題にしたらいかがを問い、「警察署や地域の人たちが安全を守ってくれているのに、何でこんなに交通事故や事件が起こるのだろうか」という学習問題を設定させる。このとき、子どもは、「警察や池端さんたちが安全を守ってくれていなかったからではないか」、「交通事故や事件を起こす人がいるからではないか」、「きまりを守らない人がいるからではないか」などと、既有的認識や事故・事件の件数を基にして原因を考え始める。

働き掛け 2

実際に起きた子どもの交通事故の事例を提示して事故の原因を問い、学習問題に対する考えを記述させる。

学習問題について考え始めた子どもに、昨年起きた交通事故の1つである、子どもの交通事故の事例を提示し、事故の原因を問う。子どもは、**推量する思考の方法**を使って、自分の普段の生活場面や事故の場面を想起し、自分の生活経験と事故の状況とをもち出して、事故の原因を考える。この場面では、図を示して事故の原因を説明させたり、自分の生活経験を具体的に説明させたりする。その後、学習問題に対する考えを記述させる。子どもは、学習問題について事故や事件の当事者の視点で、事故や事件が起こる原因を考えるようになる。しかし、まだ自



事故や事件が起こる原因を考えていない。

働き掛け 3

実際に子どもが横断歩道を渡っているVTRを提示し、学習問題に対する考えを交流させ、どのような仮説が考えられるかを問う。

まだ、自分の立場で自助の必要性や事故が起こる原因について考えていない子どもに、自分たちが横断歩道を渡っているVTRを提示する。このVTRから、子どもは、自分たちも横断歩道を渡るときに安全を確認していないことに気付き、危険だと感じる。そこで、学級全体で学習問題に対する考えを交流させる。子どもは、**推量する思考の方法**を使って、自分の生活経験や実態と交通事故や事件の事実をもち出し、「交通事故や事件に遭わないように、自分で安全やきまりを守っていないから、事故や事件が起こるのではないだろうか（仮説）」と、仮説を考える。こうして、子どもは、自分の立場で自助の必要性に気付き、事故が起こる原因について考えることができるようになる。

働き掛け 4

地域の安全を守る活動をしている人が、安全を守りきれないという話を聞かせ、分かったことを問う。

そこで、自分たちの仮説を考えた子どもに、地域の安全を守る活動をしている人が、どれだけ活動していても、全ての人の安全を守りきることはできないという話を聞かせる。そして、話の内容から分かったことを問う。子どもは、**関係付ける思考の方法**を使って、自分で安全やきまりを守っていないから事故や事件が起こるという原因と、地域の人たちが安全を守りきることはできないという事実とを結び付け、交通事故や事件に遭わないように、**誰かに守ってもらうのではなく、自分の安全は自分で守ることが大切だ**と、交通事故や事件から安全を守ることを、自分に関連付けてとらえるようになる。

4 指導計画 全16時間（48Q）

第1次 地域の安全を守る警察署の働きを調べよう（5時間：15Q）

- ・新潟市で起きている交通事故や犯罪の現状を調べる。
- ・警察署の働きを調べる。
- ・警察署の人たちの努力や願いを調べる。

第2次 地域の安全を守る人たちを調べよう（7時間：21Q）

- ・地域の安全を守る活動を行っている地域の人たちを調べる。
- ・「事故や犯罪のない、安心・安全なまちづくり」について考える。
- ・身の回りにある安全を守るための工夫を調べる。

第3次 事件や事故が起きたときの様子を調べよう（4時間：12Q）

- ・事件や事故が起きたときの連携の仕組みを調べる。

5 本時の構想 45分授業：3Q（本時 9／16時間）

(1) ねらい

地域社会の一員としての自分の生活を見つめ直すことによって、交通事故や事件に遭わないように、自分の安全は自分で守ることが大切であることに気付くことができる。

(2) 主張（展開）

このような子どもに(Go)

- 地域の人たちが、毎日交通事故や犯罪が起こらないように、地域を見回っていることを知っている。
- 地域の人たちが、自分たちや地域の人々が交通事故に遭わないように、横断歩道で交通誘導をしていることを知っている。
- 地域の人たちが、地域の人々が安全に安心して暮らすことができるように、自主的に地域の安全を守るための様々な活動をしていることを知っている。
- 地域の人たちは、警察署と協力して、地域の安全を守る活動をしていることを知っている。
- 地域の人たちは、交通安全や防犯を呼び掛けるチラシを配ったり、家庭訪問をしたりして、事件や事故を未然に防ぐための努力をしていることを知っている。
- 地域の人たちは、安全で安心して暮らすことができることを願い、自分たちの地域の安全を自分たちで守ろうと活動していることを知っている。
- 地域の人々が、自分たちや地域の人々の安全を守ってくれているととらえている。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 説明 「これまでの学習で、警察署だけでなく、地域の人たちが、みんなや地域の人の安全と安心を守ってくれていることが分かりましたね」
〈資料〉昨年度新潟市内で起きた交通事故と事件の件数を提示する。
- 説明 「この数字は、昨年新潟市内で起きた交通事故と事件の件数でしたね」
- 発問 「この数字を見て、疑問に思うことはありますか」
- 発問 「みんなが疑問に思うことをまとめると、どんな学習問題ができそうですか」
「学習問題はこれでいいですか」
※ 学習問題を黒板に書く。
- 指示 「学習問題をワークシートに書きましょう」

このような姿が促され(C1)

- 昨年新潟市内で起きた交通事故と事件の件数を見て、疑問に思うことを発表し、学習問題をつくる。
 - ・ 何でこんなに交通事故や事件が起きたのだろうか。
 - ・ 警察署や池端さんたちが頑張って安全を守ってくれているのに。
 - ・ 『警察署や池端さんたちが安全を守ってくれているのに、何でこんなに交通事故や事件が起こるのだろうか。』
- ワークシートに学習問題を書く。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 説明 「昨年新潟市内では4007件の交通事故が起きましたね。その中の1つの事故について、みんなで詳しく見てみましょう」
〈資料〉子どもの交通事故の事例図を提示する。
- 説明 「この事故は、昨年3月に古町のある交差点で起きた交通事故の図です。横断歩道を渡っていた小学校2年生の子どもと、交差点を左に曲がろうとした車とが接触して、2年生の子どもが足にケガをしました」
※ 事故の概要を図を示しながら説明する。
- 発問 「何でこのような事故が起きたのでしょうか」
- 指示 「学習問題についての予想をワークシートに書きましょう」



このような姿が促され(C2)

- 子どもの交通事故の事例から、事故の原因を考える。
 - ・ 横断歩道を渡っているときに事故が起きたんだ。なんか怖いな。
 - ・ 車の運転手が子どもに気付かなかったから、事故が起きたのではないか。
 - ・ 車が急いでいてスピードを出していたから、止まれなかったのではないか。
 - ・ 車は止まらなければいけないのに止まらなかったから、事故が起きたのではないか。
 - ・ 子どもが急に飛び出したから、事故が起きたのではないか。
 - ・ 子どもがちゃんと左右確認をしなかったから、事故が起きたのではないか。
 - ・ 子どもは車が止まってくれると思って横断歩道を渡ったから、事故が起きたのではないか。
- 学習問題についての予想をワークシートに書く。
 - ・ 車のスピードを出したり、犯罪を犯したりする人がいるから、事故や事件が起こるのだと思う。
 - ・ 交通のきまりや社会のきまりを守らない人がいるから、事故や事件が起こるのだと思う。
 - ・ 警察や池端さんたちのように安全を守ってくれる人がいないから、事故や事件が起こるのだと思う。
 - ・ 安全に気を付けていない人がいるから、事故や事件が起こるのだと思う。

ここから本時

このように働き掛けると【働き掛け3】

- ※ 働き掛け2で提示した交通事故の事例図を黒板に提示しておく。
- ※ 前時の学習について確認する。
- 説明 「みんなは、警察署や池端さんたちが安全を守ってくれているのに、何でこ

- んなに交通事故や事件が起こるのだろうかということを考えていましたね」
- 指示 「ワークシートに書いた考えを発表しましょう」
 - ※ 子どもの考えを分類して板書する。
 - ※ 横断歩道の渡り方など、「安全に気を付けていない」という考えが出たところで、次の資料を提示する。
 - 〈資料〉子どもが実際に横断歩道を渡っているVTRを提示する。
 - 説明 「安全に気を付けていないからだと考えるのですね。では、このVTRを見てください」
 - 発問 「学習問題について、みんなはどのように考えますか。」
 - 指示 「ワークシートに、今の自分の考えを書きましょう」
 - 指示 「考えを発表しましょう」
 - ※ 「この考えについてどう思うか」や「これでいいかどうか」と、クラス全体で評価・判断させる。
 - 発問 「学習問題に対するみんなの考えをまとめると、どのようになりますか」

このような姿が促され(C3)

※以下.....線：検証①

- 学習問題についての考えを交流する。
 - ・車のスピードを出したり，犯罪を犯したりする人がいるから，事故や事件が起こるのだと思う。
 - ・付け足しで，交通のきまりや社会のきまりを守らない人がいるから，事故や事件が起こるのだと思う。
 - ・少し違って，警察や池端さんたちのように安全を守ってくれる人がいないから，事故や事件が起こるのだと思う。
 - ・似ていて，安全に気を付けていない人がいるから，事故や事件が起きたのだと思う。
- VTRを見て，学習問題についての考えをワークシートに記述する。
- 学習問題についての考えを交流し，仮説を立てる。
 - ・例えば，ぼくたちは信号が青になるとすぐに横断歩道を渡ってしまいましたよね。だから，ぼくたちのように車が来ていないかどうかちゃんと確認していないから，交通事故が起こるのだと思います。
 - ・付け足しで，私たちもそうなんですけど，一人一人が自分で安全に気を付けていないから，事故や事件が起こるのだと思います。
 - ・似ていて，ぼくたちも車を運転している人も事故や事件にならないように，自分で安全やきまりを守っていないから，事故や事件が起こるのだと思います。
 - ・交通事故や事件にならないように，一人一人が自分で安全やきまりを守っていないから，交通事故や事件が起こるのではないだろうか。（仮説）
- ※のように，「～だから（から・のために）…だと思ふ」と，思考のこぼれを使つて書いたり話したりしていたら，**推量する思考の方法**を使って，自分の生活経験や実態と，交通事故や事件の事実とをもち出して考えていると判断する。
- ※のように，「似ていて」「付け足しで」「少し違って」など，つながりを示す言葉を使って話していたら，**話すスキル「自分の考えを整理して話す」**，**聞くスキル「自分の考えと比べながら聞く」**を使っていると判断する。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 説明 「みんなは，自分で安全やきまりを守っていないから，交通事故や事件が起こるのではないだろうか（仮説）と考えるのですね」
- 説明 「今日はスペシャルゲストとして，旭水町内自治会の池端さんからみんなの学習の様子をご覧いただきました」
- 説明 「池端さん，4年2組の子どもたちは，このように考えたのですが，いかがでしょうか。子どもたちにお話をしていただけませんか」
- ※ 授業を見ていた池端さんから，次の内容を話してもらう。

みなさん、とってもよく考えましたね。私もそう思います。私たちは、地域のみなさんが、安全で安心して暮らせることを願って、交通事故や事件が起きないように、地域のみなさんに注意を呼び掛けたり、パトロールをしたりして、自分たちの地域の安全を自分たちで守ろうと活動しています。

ですが、交通事故や不審者などの事件は、いつどこで起こるか分かりません。ですから、いくら私たちがみなさんの安全を守ろうと活動しても、みなさんの安全を全て守りきることはできないのです。そのことをよく知ってください。

○発問 「池端さんのお話から、みんなはどんなことが分かりましたか。発表してください」

このようになる (G4)

- 池端さんの話を聞いて、分かったことを発表する。
- ・ 事故や事件はいつ、どこで起こるか分からないし、いつも池端さんたちが守ってくれるわけではないから、自分で安全に気を付けることが大切だということが分かりました。
- ・ やっぱりぼくたちが、交通事故や不審者などの事件に遭わないように、自分の安全は自分で守ることが大切だということが分かりました。
- ・ 付け足しで、警察や地域の人に守ってもらうのではなくて、自分の安全は自分で守ることが大切だと分かりました。
- ※のように、「～だから（から・のために）…だ」と、思考のことばを使って書いたり話したりしていたら、**関係付ける思考の方法**を使って、交通事故や事件の原因と、地域の人が安全を守りきることはできないという事実とを結び付けて考えていると判断する。

このように働き掛けると【検証のための働き掛け】

- 説明 「大切なことが分かったみたいですね」
- 指示 「それでは、今日の学習を振り返って、ワークシートに〈学習のまとめ〉を書きましょう」

このようになる (Gn)

- 学習のまとめをワークシートに書く。
- ・ 今日、警察署や池端さんたちが安全を守ってくれているのに、何でこんなに交通事故や事件が起こるのだろうか考えました。そして、自分で安全やきまりを守っていないから、交通事故や事件が起こることが分かりました。交通事故や事件は、いつどこで起こるか分からないし、地域の人たちもわたしたちの安全を守りきることはできないから、自分の安全は自分で守ることが大切だということが分かりました。わたしは、きちんと安全を確認しないで横断歩道を渡っていました。だから、わたしはこれから、横断歩道で安全をよく確認して渡ったり、不審者に気を付けたりして、事故や犯罪に遭わないように自分で安全を守ろうと思います。

5 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した「思考の方法」を使って、自分の生活経験や実態と、社会的事象の事実をもち出させることができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、社会的事象を、自分の生活と関連付けてとらえることができたか。

(2) 検証の方法と手順

- ① 働き掛け3の後で、安全を守ることについて、推量する思考の方法を使って、.....のように、自分の生活経験や実態と、交通事故や事件の事実とをもち出して考えているかどうかを、ワークシートの記述と子どもの発言から検証する。
- ② 働き掛け4の後で、.....のように、交通事故や事件から安全を守ることを、自分の生活と関連付けてとらえているかどうかを、ワークシートの記述から検証する。

※上記の①、②の両方の姿があれば、表れありと判断する。